

心豊かでたくましい児童生徒を育む

小中一貫教育をめざして

シリーズ えでゆれば vol.21

学園名が「小中一貫三戸学園」に決まりました

施設一体型小中一貫教育学校（三戸小学校・三戸中学校）が来年4月に開校するにあたり、連携型で一貫教育を行う斗川小学校との3校を総称する呼び名として、「学園名」を募集しました。

開校委員会を経て三戸地区小中一貫教育学校建設推進委員会で検討され、①小中一貫三戸学園を採用することに決定しました。

関係校のPTA代表者による学園名選考委員会では、応募のあった学園名をもとに、小中一貫であること・三戸町の学園であることが分かりやすく、シンプルで呼びやすいという理由から、次の5つに絞り開校委員会へ提案しました。

- ① 小中一貫三戸学園
- ② 小中一貫三戸桜花学園
- ③ 小中一貫三戸立志学園
- ④ 小中一貫三戸城山学園
- ⑤ 小中一貫三戸希望学園

校章(学園章)について

約一ヶ月の学園名募集期間に、命名への思いを込めた124件もの応募がありました。この場をお借りし、改めてお礼申し上げます。

学園のシンボルとなる校章(学園章)は、南部家の定紋(家紋)である向鶴をモチーフに、専門家へ依頼しデザイン案を作成していただきました。

このデザイン案と開校委員会からいただいた意見をもとにして完成したのが、次のデザインです。



校章デザインの意味するもの

校章中央の緑色の三葉のマークは、三戸町の「三」を表すとともに、小中一貫教育で実施される「初等部・中等部・高等部」の教育システムを表しています。

また、この三葉のマークの緑色は「若葉」を表し、成長著しい児童生徒を象徴するとともに、左右に翼を広げ、鶴が大空に向かって羽ばたくように、児童生徒が未来に羽ばたくことへの期待を託しています。

左右に相対し、校章を円形にかたちづくる鶴は、中世戦国の時代に三戸城を築城した三戸南部氏の定紋をもとにデザインしたもので、上下に大きく広げた翼は、歴史に培われた教育の土壌が、三葉が象徴する児童

生徒をあたかも包み込むように育むことを表しています。

さらに、鶴の閉じた嘴くちばしと開いた嘴の呼吸あうんで小・中学校の教職員が手を携え、協働、協力して児童生徒の教育にいそしむ姿を表しています。

作成者
花巻 庄司氏(青森県十和田市)

※誌面では白黒で表示されていますが、実際の色は次のとおりです。

校章中央の三葉のマーク・緑
校章を円形にかたちづくる鶴・青
(三戸小・斗川小・三戸中に共通するスクールカラー)
校章中央上部の小中の文字・金

校訓について

多くの学校では、教育に関する目標や方針などを成文化した校訓が定められています。

町では、変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の「知・徳・体」をバランスよく育てることが大切と考え、次のような校訓を定めました。

小中一貫三戸学園の児童生徒は、9年間の小中一貫教育活動全体を通じて、

- 「**立志**」 志（夢や目標）を立てる。
- 「**向学**」 勉強に心を向け努力し、それぞれの夢や目標の実現のために一歩一歩前へ歩む。
- 「**健康**」 人として基本となる心と体の健康に努める。

学校(学園)行事について

保護者の皆さまの関心が高い入学式や卒業式などの式典、運動会・体育祭、学習発表会・文化祭などの行事については、施設一体型となる学校（三戸小・三戸中）と教育委員会での検討が進められています。

◆入学式

三戸小学校と三戸中学校については、1年生と7年生の入学式を合同で実施し、入学を喜び合う雰囲気大切にします。

ただし、1年生への負担を考慮し、内容や方法の工夫により式典時間を短縮して実施します。

◆卒業式

県立高等学校入試スケジュールとの兼ね合いで、三戸中学校の卒業式は3月上旬に行われています。一方で三戸小学校と斗川小学校の卒業式は3月下旬に行われているため、必要な授業時間を確保する観点と、初等部・中等部・高等部の区切りという観点からも、実施方法について更なる検討が必要です。

◆運動会・体育祭

現在の三戸小学校のグラウンドで合同開催します。別々に開催される場合に比べて競技種目は減りますが、異年齢交流種目の新設や、伝統の棒体操・組体操（三戸小）とマ스ゲーム（三戸中）を融合した演目の披露も検討されています。

◆学習発表会・文化祭

P T A活動との兼ね合いもあるため協議が必要となりますが、合同で開催できるよう検討を進めています。

これらの検討事項については、連携型の斗川小学校の関係者も含めた場で、更に検討を進めてまいります。

これまでに決定していること

◆校歌(学園歌)について

三戸小学校の校歌を統一校歌として採用します。

連携型の斗川小学校では現在の校歌を引き続き歌うこととなります。

◆制服やジャージについて

小中一貫教育の先進地の例では、新たに一貫校としての制服をつくり、1年生または5年生から着用している例も多く見られます。

三戸町の場合は家庭の負担も考慮し、施設分離の連携校である斗川小学校を含め、当面は現在のままの制服・ジャージを着用することになります。

今後決定した事項や検討状況について、本誌面を通じてお知らせしてまいります。



ようこそ先輩

去る11月2日、斗川小学校で立志科「ようこそ先輩」という授業が行われ、三戸中学校3年生の大澤勇騎君、佐藤春樹君、大村真智子さんの3名が、母校である斗川小学校を訪れました。

3名の先輩は、中学校生活の様子や、学習の仕方、進路の決定などについて、後輩たちの質問に熱心に答えていました。

後輩たちは「勉強の仕方がわかった」「将来の進路について真剣に考えるきっかけになった」と、中学校生活に思いをはせながら、学習を振り返っていました。



ようこそ先輩の様子（斗川小学校）